

フロンティアプロスパー株式会社

経営ビジョンおよびDX実現への取り組み



- Environment -

デジタル技術の進展と 業界構造変化への対応

クラウド、AI、自動化技術の進展により、企業の業務改革の実行可能性は高まっています。

一方で、人手不足、業務の属人化、既存システムの複雑化など、業界を問わず共通する課題が顕在化しています。

当社は、これまで複数業界での支援実績、とりわけ食品流通・物流分野で培った業務理解と現場対応力を強みとし、実行可能なDXの推進が重要であると認識しています。

- Vision -

経営と現場をつなぐ 実行伴走型DXの実現

当社は、DXを経営戦略の一環として位置付け、業務の可視化を起点とした伴走型支援を推進します。

ITを目的化せず、経営課題の整理と現場業務の改善を両立させることで、持続可能な価値創出を目指します。

特定業界に限定せず、これまでの食品流通・物流分野での実績を含む多様な経験を活かし、企業ごとの状況に応じた支援を行います。

- Model -

可視化起点・段階的推進による DX伴走モデル

当社は、既存システムを含む業務全体の可視化を出発点とし、優先順位を整理したうえで実行可能なテーマから段階的にDXを推進する伴走型モデルを展開します。

小規模な施策から開始し、効果検証を重ねながら改善を継続することで、無理のない変革を実現します。

食品流通・物流業界での支援実績を通じて培った業務構造理解を活かしつつ、業界を問わず柔軟に対応できる体制を維持します。

- Strategy -

可視化と継続改善を軸とした、 持続可能なDX戦略

業務・IT環境の現状を整理し、実行可能なテーマから着実に取り組むことを戦略の中核とします。

大規模刷新を前提とせず、実行・評価・改善のサイクルを定着させることで、持続可能なDX基盤を構築します。

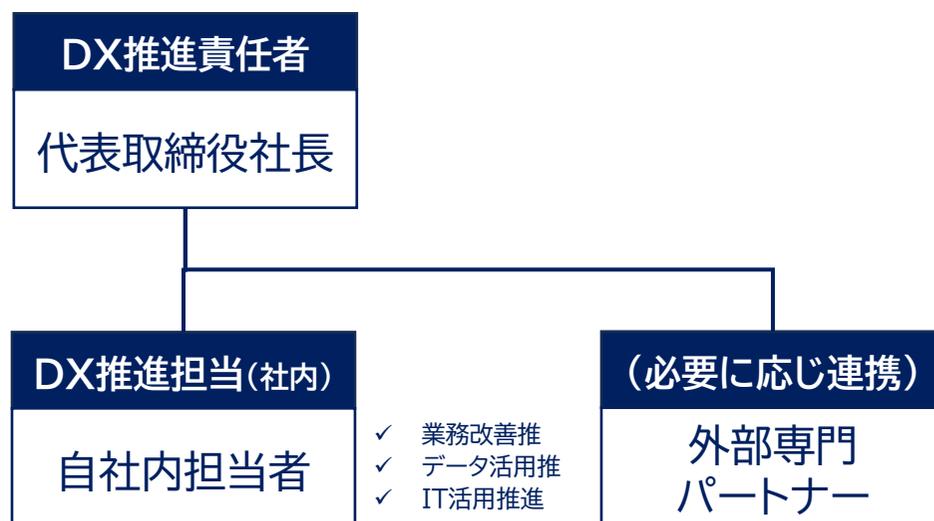
自社内でもクラウド活用や業務可視化を推進し、その知見を顧客支援へ還元します。

- Governance -

経営直結型・迅速実行体制によるDX推進

当社は、DXを経営戦略の中核に位置付け、代表取締役がDX推進責任者を兼務する体制を採用しています。DX推進責任者のもとで、社内担当者がDX推進を担当します。

また、必要に応じて外部専門パートナーと連携し、システム開発・セキュリティ対策・技術支援を行うことで、迅速かつ柔軟なDX推進体制を構築しています。



KPIを定期的に確認し、必要に応じて方針を見直すことで、継続的な改善を図ります。

- Talent -

実践を通じたDX人材の育成

DX推進には、デジタル技術だけでなく、業務改善を実行できる人材が必要です。当社ではDXプロジェクトを通じて、

- 業務可視化
- IT活用
- 業務改善

の経験を蓄積し、実行力のあるDX人材を育成します。

また、専門性が必要な領域については外部専門家と連携し、技術変化へ対応します。

- Infrastructure -

戦略実行を支えるクラウド活用と 情報セキュリティ強化

当社では、クラウドサービスを活用した業務基盤を整備し、
情報共有とデータ活用を推進しています。

また、情報資産の機密性・完全性・可用性を確保するため、
情報セキュリティ基本方針を策定・公表し、SECURITY ACTION
(二つ星)自己宣言を実施しています。

これにより、安全で信頼性の高いDX推進体制を構築します。

- Metrics -

DX推進における成果指標

KGI（最終目標:3年以内）

伴走型DX支援モデルの確立

KPI（年度管理指標）

- DX伴走型案件比率:50%以上
- 業務可視化実施案件数:3件/年
- 継続改善支援案件提案数:10件/年
- 社内業務におけるクラウドサービス活用率:
80%以上

※定期的に確認し、必要に応じて見直します。

- Roadmap -

3か年DX推進ロードマップ

